

木崎中だより

10号

平成30年2月1日(木)
さいたま市立木崎中学校
048(886)4302

雨にも負けず 風にも負けず

校長 大谷 慎也

先週は、予想以上の雪が降り、現在も除雪や凍結防止等の対応に生徒や教職員が追われています。このような中、生徒が雪で動けなくなった自動車の救出を手伝ったというお話を地域の方からいただいたり、PTA 会長さんが学校の正門前の横断歩道の氷雪を取り除いてくださった跡を目にしたりして、心が温まりました。さらに寒さの厳しい日々が続いていますが、昔から春告草として親しまれている梅もほころび、4日(日)には立春を迎えます。学校でも、3年生から私立高等学校をはじめ、入学試験等の結果が報告され、春が告げられています。梅には、さらに「好文木」という別称があり、古代中国の晋の武帝による「文(学問)に親しめば梅ひらき、疎かにすると梅開かず」という故事に由来するという説があります。勉学に勤しんだ結果が花を咲かせています。

さて、私の好きな童話作家であり、詩人でもある 宮澤 賢治の『雨ニモマケズ』を紹介します。

雨ニモマケズ 宮澤 賢治

雨ニモマケズ 風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ 丈夫ナカラダヲモチ

慾ハナク 決シテ臆ラズ イツモシヅカニワラツテキル

一日ニ玄米四合ト 味噌ト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲ ジブンヲカンジョウニ入レズニ

ヨクミキキシ ワカリ ソシテ ワスレズ野原ノ松ノ林ノ蔭ノ 小サナ萱ヅキノ小屋ニキテ

東ニ病氣ノコドモアレバ 行ッテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ 行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ

南ニ死ニサウナ人アレバ 行ッテコハガラナクテモイ、トイヒ

北ニケンクウヤソシヨウガアレバ ツマラナイカラヤメロトイヒ

ヒドリノトキハナミダヲナガシ サムサノナツハオロオロアルキ

ミンナニデクノボートヨバレ ホメラレモセズ クニモサレズ

サウイフモノニ ワタシハナリタイ

小・中学校の国語科の教科書には、宮澤 賢治の複数の作品が掲載され、児童・生徒にも親しまれています。しかし、賢治が明治29年に岩手県の花巻に生誕し、昭和8年に逝去するまでに刊行された作品は、童話集『注文の多い料理店』と詩集『春と修羅』のみでした。『雨ニモマケズ』は、昭和9年に遺品の手帳に書き留められているのを発見された詩です。明治29年は三陸地震と陸羽地震が連続して発生し、多くの人々が被災しました。その後、冷害などによる凶作により人々の生活は何年も困窮し続けます。賢治自身も、将来について父と意見が合わなかったり、旧制中学校や農林学校時代に病気を患ったりして思うような生活ができません。さらには、最愛の妹トシを病気で失います。この時の悲しみは『春と修羅』に著されています。このような中、賢治が理想としていた人物がいます。斎藤 宗次郎という人です。花巻の禅宗の寺に生まれ、小学校の教師となりました。その後、内村 鑑三の影響を受け、クリスチャンになります。当時の時代背景により理解されず、勘当、辞職に追い込まれ、迫害も受けます。しかし、人々のために無欲で尽くします。宗次郎が内村 鑑三に招かれ、上京する際、賢治が駅に見送りに行くと、町長をはじめ、多くの人々が惜別する予想外の光景に遭遇します。賢治は、「サウイフモノニ ワタシハナリタイ」と憧憬の念を抱くこととなりました。

宗次郎も賢治も、雨に負け、風に負けず。人生の中で、思いどおりにいかないことのほうが多いかもしれません。場合によっては、雨に負け、風に負けてもよいのではとも思います。そんな時に大切なことは、他の人に話すこと、相談することです。子どもが悩んだり、辛かったりしたら、いつでも話を聴いてあげられる大人でありたいと考えます。卒業、進学・進級の時季が近づいてきました。保護者の皆様、地域の皆様、何卒御支援のほど心よりお願い申し上げます。